緒方議員（自民議連）

令和７年２月 28 日
教育長職務代理者答弁実録
（教育委員会）

（問）グローバル人材の育成に向けた支援について

県としてグローバル人材の育成を推進することの重要性の認識は、広島叡智学園の開学に向けた議論を行っていた頃と変わっていないのか、もし変わっていないとするならば、海外留学には多額の費用を要するといった厳しい状況の中で、海外の大学への進学を志す県内の高校生等に対して、何らかの支援が必要だと考えるが、教育長職務代理者の所見を伺う。

（答）

本県におきましては、異なる文化や価値観を持つ人々と協働し、答えのない諸課題の解決に挑戦し続け、新たな価値を創造することのできるグローバル人材を育成するため、児童生徒の姉妹校交流や海外留学を含めた、異文化間協働活動を推進しております。

児童生徒が異文化に直接触れ、協働する体験を得ることの重要性は、グローバル化の進展に伴い、増していると認識しており、具体的な活動につなげていくための経済的支援も必要であると考えております。

こうした中、広島叡智学園におきましては、異文化間協働活動を教育活動の中核に据え、外国人等留学生との協働によるプロジェクト型学習などを通して、グローバルに活躍できる資質・能力を育成しているところでございます。

また、経済的な負担などにより海外大学への進学を断念することがないよう、学校と教育委員会が協力して、生徒の支援先を積極的に開拓するとともに、日本学生支援機構や海外大学、各種民間団体の奨学金などの情報を、生徒・保護者に提供してきたところでございます。

コロナ禍以降も、県内の高等学校におきましては、海外留学への機運の更なる醸成を図るため、留学フォーラムを毎年開催するとともに、給付型の国の補助金だけでなく、本県独自の助成金や貸与型の留学奨学金を創設するなど、生徒の海外留学支援に向けて、継続的に取り組んでまいりました。

教育委員会といたしましては、広島叡智学園の先進的な実践から得られた海外留学のノウハウや、海外大学に関する進学情報、経済的支援に係る情報などを、新たに広く県内の生徒・保護者に還元し、海外進学を目指す生徒への支援を行うとともに、引き続き、県内児童生徒の異文化間協働活動の更なる充実を図り、グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成に取り組んでまいります。